

学校経営方針（中期経営目標）	前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点（短期経営目標）
<p>市民の期待に応える学校づくりの推進</p> <p>1 「個を活かし、公に生きる」人間の育成</p> <p>2 「グローバルに活躍する」人間の育成</p> <p>3 感じる力、考える力、行動する力、向上する力、関わる力（5K力）の育成</p> <p>4 バランス感覚のある、人間としての総合力をはぐくむ教育の推進</p>	<p>（成果）</p> <p>1 各学年少人数授業を実施し、きめ細かな指導や専門性の高い授業展開を通して、学力向上を図ることができた。その成果として、学力推移調査の結果に結び付けることができた。また、主体的な学びの育成に向け、タブレットPC等の活用を進めるとともに、オンラインによる授業を実施するなど、ICT活用を積極的に行った。</p> <p>2 総合的な学習の時間「みらい楽」では、社会の抱える課題の解決に向けての取組など、実際に、企業や行政に要望や提案をするなど主体的に地域や社会と関わり、発信しながら学びを深めることができた。さらに、探究活動の成果報告会を実施し、着眼点や手法等を習得するとともに、発表することができた。</p> <p>3 部活動加入率は高く、高校と連携しながら活動できた部活動もあった。成果として、放送部が全国大会最優秀賞を受賞したり、多くの部活動で市内大会3位以内といった結果で表彰を受けたりした。また、中学の部活動引退後も切れ目なく高校の部活動で活動するなど、6年間を見通した部活動運営ができた。生徒会活動においても、生徒が活発に運営した。</p> <p>4 長期休業中の三者面談や日常的な家庭との連携を密にすることで、信頼関係を築くことができた。</p> <p>5 学校説明会や「附属中だより」の発行を効果的に行い、志願者人数を前年度比で増加させることができた。</p> <p>（課題）</p> <p>1 6年間を見通した中高一貫教育をより充実させ、中高一体となった校内組織を確立するため、組織としての動きを高め、効率的に教育の質を高めていけるようにする。</p> <p>2 日常の動線を中高同じにする機会を増やしたり、行事等福高生と中学生が関わる機会を積極的に設けるなど、中高一貫教育校ならではのコラボを充実させる。</p> <p>3 中学や高校（本校・分校）、各分掌、各教科間でのOJTをさらに推進し、学校全体の教育力向上に向け教職員の資質・能力の向上が図れるようにする。</p> <p>4 学校防災や感染症対応など、生徒及び教職員が危機管理意識を高めていけるよう安心・安全な学校づくりに努めていく。</p>	<p>1 中高一貫教育の推進</p> <p>(1) 中高間及び分掌間の連携を図るとともに、中高一体となった校内組織を確立する。</p> <p>(2) 中高6年間を見据えて資質・能力を育成するため、中高の接続を意識した中学3年間の指導の充実を図る。</p> <p>(3) 6年間を見通しながら生徒の発達段階に応じたきめ細かで、組織的な生徒指導体制を確立する。</p> <p>2 一人一人の学力の向上</p> <p>(1) 少人数授業等のきめ細かな指導を通して、基礎的・基本的な学力の定着を徹底するとともに、わかる喜びを実感させる。</p> <p>(2) 「主体的・対話的で深い学び」の視点に立った授業改善を行い、思考力、判断力、表現力を育成する。</p> <p>(3) ICTを効果的に活用した授業改善を推進する。</p> <p>(4) 総合的な学習の時間「みらい楽」や体験活動を通して生徒自らが課題を設定し、探究の楽しさを実感させ、社会や地域の課題解決に主体的に取り組む姿勢を養う。</p> <p>3 「福高コラボ」の推進</p> <p>各種行事や部活動、生徒会活動等での協働活動を通して、異年齢との関わりから学び、刺激を受け、成長できるような、中高一貫教育校ならではのコラボを実施する。</p> <p>4 健やかな身体と豊かな人間性の育成</p> <p>学級活動や学校行事、部活動、伝統文化体験授業等を通して、心身を鍛えるとともに、仲間づくりの大切さに気づかせ、人権意識や規範意識、思いやりの心を育む。</p> <p>5 学校組織の改善と見直し</p> <p>教職員の資質・能力の向上と、学校全体の教育力向上のため、中高、各分掌、各教科の在り方を含めた業務改善と効率化を図る。</p> <p>6 適正な学校運営と安心・安全な学校づくり</p> <p>全教職員が危機管理意識や防災意識を持ち、学校全体を見通した危険個所の早期発見や日々の点検に努め、適正な学校運営にあたる。学校防災や感染症対応など、生徒・保護者・教職員が共通認識をもち、危機管理体制を確立し、安心・安全な学校を作る。</p> <p>7 家庭・地域・関係機関との連携の強化</p> <p>(1) 積極的に家庭連絡・家庭訪問を行うなど、家庭との連携を密にして信頼関係を築く。</p> <p>(2) 地域学習や地域連携活動等を通して、積極的に地域や外部機関と関わろうとする姿勢と行動力を育む。</p>

評価領域	重点目標（取組の重点課題）	具体的方策	評価	成果と課題																
組織・運営	<p><b>【 中高の接続を意識した指導の充実 】</b> 6年間を見通しながら、ICTや少人数授業を効果的に行い、基礎的な学力の定着の徹底及び探究的な視点からの学びを充実させる。</p>	<p>中高6年間で育む資質・能力を意識した指導の充実を図ることを通じて、生徒の発達段階に応じた、深い学びを実現していく。</p> <p><b>【 学校経営計画（実施段階）を指標とする。 】</b> [年度末評価 A, B評価の教科数（全10教科）]</p> <table border="1" data-bbox="828 411 1451 480"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>10教科</td> <td>9・8教科</td> <td>7・6教科</td> <td>5教科以下</td> </tr> </tbody> </table> <hr/> <p><b>【 学校評価アンケート（生徒）を指標とする。 】</b> [本校は学力向上に十分努めていると思う割合]</p> <table border="1" data-bbox="828 576 1451 644"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>80%以上</td> <td>79～60%</td> <td>59～45%</td> <td>44%以下</td> </tr> </tbody> </table>	A	B	C	D	10教科	9・8教科	7・6教科	5教科以下	A	B	C	D	80%以上	79～60%	59～45%	44%以下	<p>B</p> <hr/> <p>B</p> <hr/> <p>A</p> <hr/> <p>A</p> <hr/> <p>B</p>	<p><b>【学力向上に関わって】</b> ・年度末評価がA, Bの教科は、全10教科中9教科であった。 ・生徒が学力向上に対する取組が十分だと思っている割合は93.2%であった。 ・学力向上に関して保護者が91%で生徒の方が数値が高くなった。効果的なICT活用等を通じて授業改善を図り、一層生徒及び保護者の要望に応じていく必要がある。</p> <p><b>【教育力向上に関わって】</b> ・保護者が、本校を魅力的な学校だと思っている割合は91.8%であった。 ・内部評価で本校を魅力的だと思う割合は62.5%であった。 ・保護者の結果からは一定満足感が得られていることが窺える。その思いを受け一層組織としての連携を高め、共通認識を持って全校体制で効率的に教育の質を高めていく必要がある。</p> <p><b>【効果的な広報活動に関わって】</b> ・今年度における入学者選抜の志願者倍率は昨年度より大幅に下回り1.6倍となった。 ・年3回の学校説明会が定着し、その中で小学校5年生以下の児童には一定魅力を伝え、来年度に繋げることができた。</p>
A	B	C	D																	
10教科	9・8教科	7・6教科	5教科以下																	
A	B	C	D																	
80%以上	79～60%	59～45%	44%以下																	
教務部	<p>学力向上に向け、主体的・対話的で深い学びを実現するための授業改善を進め、主体的な学習態度の育成に努める。</p>	<p>主体的・対話的で深い学びを実現するため、各学年・教科で行われている指導実践を共有し、生徒の学習意欲を高める指導の工夫改善につなげる。 [授業アンケート中の主体的な学習活動に関する質問に対する生徒の自己評価の平均]</p>	<p>B</p>	<p>・授業公開週間など、中学と高校の校内教職員対象のものに加え、校外の教職員にも授業を公開する機会が増え、実践の交流ができた。また、指導の工夫につなげ</p>																

		A	B	C	D		
		3.6以上	3.0~3.5	2.5~2.9	2.4以下		
	高校と連携して、学習過程の見直しにつながるような評価の在り方、ICT活用に向けての研修を進める。	学習指導の改善が生徒の学習過程の見直しに繋がるよう、校内での研修の機会を増やし、各教科間や分掌、学校全体で教育力向上を目指す。 [学校評価アンケート（生徒）の学力向上に関する取組の上位の割合]				D	C
		A	B	C	D		
		98%以上	96%以上	94%以上	93%以下		
生徒指導部	明るく元気に挨拶を交わし、身だしなみを整えることで、よりよい人間関係を築き、社会性を育む。	挨拶、身だしなみについて意識を高められるように、日常的に教員から積極的に声掛けを行う。 [アンケートで、プラス評価の割合の平均値]				A	A
		A	B	C	D		
		80%以上	80%~65%	65%~50%	50%未満		
	交通安全に関わるルールの遵守や通学マナーの向上に向けた指導を行い、交通事故防止に努める。	通学マナーの向上を呼びかけ、交通事故の防止や他者をおもいやる行動などの啓発運動をする。 [アンケートで、プラス評価の割合の平均値]				B	
		A	B	C	D		
		80%以上	80%~65%	65%~50%	50%未満		
	「行動する力」「関わる力」を始め、5つの力の育成のため、生徒会執行部を中心とする委員会活動の活性化を図り、主体性と協調性を育む。	生徒会執行部及び各委員会で学校生活の充実に向けた取組を行う。 [アンケートで、プラス評価の割合の平均値]				A	
		A	B	C	D		
		80%以上	80%~65%	65%~50%	50%未満		
進路指導部	進路意識を向上させ、夢や希望を持って高校進学に臨むように指導する。	高校進学後の展望と、大学進学、そして大学卒業後の進路の見通しを持たせる。 [進路学習後のアンケートで、高校・大学進学や将来の夢について“考えることができた”と答えた生徒の割合]				A	
		A	B	C	D		
		80%以上	65%以上 80%未満	50%以上 65%未満	50%未満		

るため、参観授業を中学校部会で設定し、主体的に考えて表現させる授業の進め方や、授業でどのような力を付けるのかを考えることができた。  
・主体的な学習活動に関する質問の平均は3.4、学力向上に関する取組の上位の割合は93.1%であった。

・挨拶、身だしなみ等マナーについてのアンケート結果は、プラス評価の平均が86.2%であり、各学年とも高い評価であった。日頃から声掛けすることで規範意識を高められたと思う。  
・通学マナーについてのアンケート結果は、プラス評価の平均が65.1%であった。今年度は交通事故の件数が減ったが、外部から並列走行などのご指摘が数件あった。その都度、注意喚起をしたが、定期的に安全運転等を心掛けるよう啓発運動をすると良かった。また、電車やバスの乗車マナーについても定期的にマナー改善を促す運動ができればよかった。  
・生徒会活動は昨年度に比べて活動の回数が増え、全体的に活発に活動ができてきた印象である。生徒アンケートのプラス評価の平均が85.2%であった。今後も生徒会を中心とした活動を継続させたい。

・高校、大学進学や将来の夢について考えることができた中3生徒の割合は85%であった。今後は、外部講師による講演だけではなく、6年間を見通した具体的な目標を考える機会を設けたり、校内での継続的な取組を実践したりす

		<p>高等学校における進路指導の実際を知り、早期から大学進学や大学進学後の就職を意識したキャリア教育を推進する。</p> <p>[大学進学を意識した進路学習の回数]</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>6回以上</td> <td>4～5回</td> <td>2～3回</td> <td>1回以下</td> </tr> </tbody> </table>	A	B	C	D	6回以上	4～5回	2～3回	1回以下	C	B	<p>ることが必要である。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・中2では、官民の視点から職業講演、ワークショップを実施することができ、「働くこと」は「人を幸せにすること」など自分なりの職業観を半数の生徒に持たせることができた。(55%)</li> <li>・中3はベネッセによる講演会や高校教員による入試問題の解説を通して、高校進学へ向けての心構えを意識させることができた。</li> </ul>
A	B	C	D										
6回以上	4～5回	2～3回	1回以下										
	<p>職場体験学習などを計画し、職業観を身に付けさせるとともに将来地域社会に貢献する人材となるべき資質・能力・態度を身に付けさせる。</p>	<p>職場体験学習を通して、自分自身の職業観を考えさせる。</p> <p>[職場体験学習後のアンケートで、“職業観が定まっている”と答えた生徒の割合]</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>80%以上</td> <td>65%以上 80%未満</td> <td>50%以上 65%未満</td> <td>50%未満</td> </tr> </tbody> </table>	A	B	C	D	80%以上	65%以上 80%未満	50%以上 65%未満	50%未満	C		
A	B	C	D										
80%以上	65%以上 80%未満	50%以上 65%未満	50%未満										
保健部	<p>生徒が健やかで安心・安全な学校生活を送ることができるよう、自らの健康や安全に対する意識の向上を図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒が健康で安全な学校生活を送ることができるよう、病気や怪我の予防、また、授業・部活動・登下校時の災害防止に努める。定期的に「ほけんだより」、「安全だより」を発行し、健康、安全に関する注意喚起を行う。</li> <li>・新型コロナウイルス等感染症の拡大防止のため、啓発活動、健康観察、体調不良者への対応等に全校体制で取り組むことができるよう、情報提供や提案を行う。</li> <li>・健康診断結果に基づく要治療・再検生徒の受診率の向上を目指す。</li> </ul> <p>[眼科 視力検査で裸眼視力がB・C・Dの生徒の受診率]</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>50%以上</td> <td>49～30%</td> <td>29～20%</td> <td>19%未満</td> </tr> </tbody> </table>	A	B	C	D	50%以上	49～30%	29～20%	19%未満	B	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・感染症対策や健康診断等、時機に応じた「ほけんだより」「安全だより」を発行することができた。「ほけんだより」13号、「安全だより」8号まで発行した。</li> <li>・視力検査は4月と10月の年2回実施した。2回目の検診で受診した生徒もおり、生徒の受診率は38%であった。検診後、保健委員会で、目の健康について調べ、集会で発表することで主体的に考え、実行に移していくことに繋がった。保健委員会の活動回数は、ランチミーティングを複数回実施するなど、10回以上行った。感染対策として、換気の励行を促すこともできた。</li> <li>・学年をまたがって縦割りや班編制しての清掃を提案し、計画</li> <li>・実施するなど学年のつながりを意識して活動をし、美化への関心を深めることができた。</li> </ul>
	A	B	C	D									
50%以上	49～30%	29～20%	19%未満										
	<p>環境教育の充実を図り、校内美化に対する意識を高め、学習環境作りに努める。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教室、トイレ、廊下等、校内の清掃、また感染症予防のための消毒を行い、校内の衛生管理に努める。</li> <li>・保健委員による校内の衛生管理活動等を企画して行い、校内美化に対する生徒の意識を高める。</li> </ul> <p>[保健委員会の年間活動回数]</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>10回</td> <td>9～7回</td> <td>6～4回</td> <td>3回未満</td> </tr> </tbody> </table>	A	B	C	D	10回	9～7回	6～4回	3回未満	A		
A	B	C	D										
10回	9～7回	6～4回	3回未満										
人権教育部	<p>様々な人権問題についての正しい理解や認識を深め、人権尊重の実践的態度を養う。</p>	<p>学年部や他分掌の連携を深め、人権学習の教材や指導方法の改善に努める。</p>			<ul style="list-style-type: none"> <li>・人権学習は6月と2月に実施した。学年と連携し、資料や指導案</li> </ul>								

		[学校評価アンケート 生徒の人権学習に対するプラス評価平均]	A	の更新を行った。また、今年度は、中丹支援学校及び日新中学校の支援学級との交流会を本校で実施した。1年生が人権学習で学んだことを活かし、相手のことを考えた行動を実践することができた。 ・教職員の人権研修は高校と同様に実施した。新たな講師に依頼し、貴重な話を聞いて、研修を行うことができた。
	教職員の人権意識の高揚を図り、指導力の向上に努める。	教職員人権研修を充実させ、教職員の指導力の向上を図る。 [教職員人権研修の実施]	A	
総務企画部	本校の特色ある取組や、生徒の充実した学校生活の様子を地域の方や小学生またその保護者等に正しく知ってもらえるよう広報誌(附属中だより、附属中案内)やホームページ等による情報発信、各種説明会を工夫し、発展させる。また本校生徒・保護者に対しても同様に本校の取組等をこれまで以上に知ってもらうよう広報誌(福中タイムズ)の配信、ホームページ等の更新等に努める。	在校生とその保護者に本校の活動の様子をよりよく知ってもらうように、分掌内外の連携を強化し、ホームページや福高タイムズ等を媒体に積極的に情報発信することで広報に関する満足度を高める。 [学校評価アンケート(保護者用)問11「ホームページ等広報」におけるプラス評価の割合(全学年の平均値)]	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本校の教育内容を知ってもらうために、多岐にわたる内容をより積極的にホームページに掲載することができた。また、福中タイムズについては高校生との対談を通して生徒たちの思いを深掘りするような内容を発信することができた。</li> <li>・広報物については本校の教育についてわかりやすく伝わるようより工夫して作成することができた。また、各種説明会も参加者の高い満足度を得ることができたが、募集人数の増加に繋げることはできなかった。</li> <li>・年間を通じて部会を定期的に設定するとともに、日常的にコミュニケーションを密にすることで、部員同士の意思疎通を図りながら業務に取り組むことができた。</li> </ul>
		ホームページや広報誌(附属中だより、附属中案内)、小学生対象の説明会等の広報に関わる様々な取組の内容や方法を改善していくことで、本校の魅力を知ってもらうよう努め、志願者の増加を目指す。 [志願者数]	D	
	分掌内外の連携を密にし、高校と附属中学校の広報や生徒募集を有機的に機能させる。 [分掌会議の実施回数(作業を除く)]	B		
みらい探究部	みらい楽において身につけさせたい力を明確にし、それらの力がどれくらい身についたのか確認し、今後改善していく部分を明確にすることで、生徒が主体的に学ぶ力を高める。	みらい楽において、課題研究に必要なスキル、研究の進め方や発表の仕方、評価の方法等を工夫・改善し、より系統的で深い学びとするための学習計画を作成する。 [担当者の評価による計画と実施内容の達成度]	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・観点1について 1年生は「地球環境問題」、2年生は「働くとは」、3年生は「地域課題解決」を、テーマ設定し活動した。各学年とも系統的な学習計画を策定し、ほぼ計画通りに実施することができた。</li> </ul>

		<p>みらい楽における探究活動を通して課題発見・解決力、情報収集力、論理的思考力、コミュニケーション力、表現力など汎用的な力の育成を目指す。</p> <p>[生徒の自己評価によるスキル向上平均値]</p> <table border="1"> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> <tr> <td>4.0以上</td> <td>3.0以上</td> <td>2.0以上</td> <td>2.0未満</td> </tr> </table>	A	B	C	D	4.0以上	3.0以上	2.0以上	2.0未満	D	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・観点2について 初期の値が高く、設定自体が適切でなかった。数値の変化を見ると、学年が上がるごとに数値が向上している。これは、プロジェクト学習の効果が表れていることが考えられる。</li> <li>・観点3について 土曜講座については、全44講座中、40講座が附属中生も参加可能な講座として設定され、のべ55名の附属中生が参加した。学年ごとにばらつきがあるので、分掌から各担任の先生へアナウンスをこまめにしていきたい。</li> </ul>
A	B	C	D										
4.0以上	3.0以上	2.0以上	2.0未満										
	土曜講座を通して、学校における授業の深化・発展や基礎補充、地域における多様な学習や体験等ができる豊かな学びの環境を提供する。	<p>生徒のさらなる成長を支え、興味を持って主体的に学習に向かう力を向上させるために積極的に土曜講座を活用する。</p> <p>[土曜講座に参加した附属中生徒数]</p> <table border="1"> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> <tr> <td>30以上</td> <td>25以上</td> <td>20以上</td> <td>20未満</td> </tr> </table>	A	B	C	D	30以上	25以上	20以上	20未満	A		
A	B	C	D										
30以上	25以上	20以上	20未満										
図書 視聴覚部	読書活動を推進し、5つの力を基盤とした「知識に裏付けされた判断力」「豊かな表現力」「感性を磨く力」を育成する。	<p>豊かな読書活動を推進するために、図書委員会が図書館と学級の架け橋となるよう支援する。</p> <p>学年、分掌、教科と連携し、図書館活用の機会を増やすとともに、活用内容の充実を図る。</p> <p>[授業での図書館活用回数（みらい楽を除く）]</p> <table border="1"> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> <tr> <td>40回以上</td> <td>30～39回</td> <td>20～29回</td> <td>19回以下</td> </tr> </table>	A	B	C	D	40回以上	30～39回	20～29回	19回以下	B	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の探究活動や読書活動の推進に向けて、関連図書や資料の貸出を行い、学習の充実を図ることができた。探究活動以外では3つの教科で図書館活用があった。学校でのICT活用の現状と課題をふまえ、図書館でできることを検討していきたい。[探究活動以外での図書館活用回数32回]</li> <li>・PTA活動については、会員の皆様の御協力のもと、朝の交通立ち番や進路講演会の運営、校内の安全点検、福高祭での飲料の配布など、各専門部の事業を予定どおり実施することができた。今後も活動が円滑に運営されるよう連携していきたい。[PTA活動に対するプラス評価68.7%]</li> </ul>
	A	B	C	D									
40回以上	30～39回	20～29回	19回以下										
PTA活動を推進し、保護者や府民の学校理解につなげる。	<p>PTA活動が円滑に運営されるよう、事務局としての役割を果たす。学校行事やPTA活動について「さくら連絡網」を活用した、継続的かつ安定的な情報発信を行うとともに、機能充実に努める。</p> <p>[保護者対象学校評価アンケートのPTA活動に対するプラス評価]</p> <table border="1"> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> <tr> <td>80%以上</td> <td>70～79%</td> <td>60～69%</td> <td>60%未満</td> </tr> </table>	A	B	C	D	80%以上	70～79%	60～69%	60%未満	C			
A	B	C	D										
80%以上	70～79%	60～69%	60%未満										
第1学年	中高一貫教育校であることを実感し、充実した学級生活を送れるような学級経営を行う。	<p>高校生との交流や協働活動を充実させるとともに、生徒指導、教育相談等を適切に行い、生徒を生かす学級経営に努める。</p> <p><b>【学校評価アンケート(学力向上、悩み不安の解消、福高コラボ)に対するプラス評価平均値の割合】</b></p>	A		<ul style="list-style-type: none"> <li>・学力向上の取組、悩み・不安の解消で97%という高いプラス評価が得られた。この結果から生徒指導や教育相談等を適切に行い、個を大切にす学級経営ができた</li> </ul>								

		<table border="1"> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>80%以上</td> <td>70%以上</td> <td>60%以上</td> <td>60%未満</td> </tr> </table>	A	B	C	D	80%以上	70%以上	60%以上	60%未満			
A	B	C	D										
80%以上	70%以上	60%以上	60%未満										
	総合的な学習の時間「みらい楽」を通して、他者との対話を重ね、様々な立場の考え方に触れながら、問題をよりよく解決するための資質・能力を育む。	総合的な学習の時間「みらい楽」の時間を活用し、フィールドワークや書籍、インターネットを通して、グローバルな視点で課題を捉え、グループや個人での探究学習を実施する。 【生徒の自己評価によるスキル向上平均値】 <table border="1"> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>2.0以上</td> <td>1.5以上</td> <td>1.0以上</td> <td>1.0未満</td> </tr> </table>	A	B	C	D	2.0以上	1.5以上	1.0以上	1.0未満	D	C	<p>言える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・福高コラボでは、70%という昨年度より高い数値ではあるものの、上記の項目に比べ低い結果となった。学校祭だけでなく、他の場面でも高校生と協働した活動ができないか来年度以降は検討が必要である。</li> <li>・「みらい楽」では、地球環境問題に取り組み、探究活動を実施できた。</li> </ul>
A	B	C	D										
2.0以上	1.5以上	1.0以上	1.0未満										
第2学年	中高一貫教育校であることを実感し、充実した学級生活を送れるような学級経営を行う。	高校生との交流や協働活動を充実させるとともに、生徒指導、教育相談等を適切に行い、生徒を生かす学級経営に努める。 【学校評価アンケート(学力向上、悩み不安の解消、福高コラボ)に対するプラス評価平均値の割合】 <table border="1"> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>80%以上</td> <td>70%以上</td> <td>60%以上</td> <td>60%未満</td> </tr> </table>	A	B	C	D	80%以上	70%以上	60%以上	60%未満	B		<ul style="list-style-type: none"> <li>・学力向上の取組、悩み・不安の解消では、高いプラス評価が得られた。特に悩み・不安の解消では、97%の生徒がプラスの評価をしており、丁寧な生徒指導や教育相談等を行った結果と考えられる。</li> <li>・一方、福高コラボでは半分を下回り、学校祭だけではなく他の場面での高校生との協働活動を来年度見いだしていく必要がある。</li> </ul>
A	B	C	D										
80%以上	70%以上	60%以上	60%未満										
	総合的な学習の時間「みらい楽」を通して、他者との対話を重ね、様々な考え方に触れながら「人はなぜ働くのか」という問いに対する納得解を見出す。	総合的な学習の時間「みらい楽」の時間を活用し、課題解決型学習の手法を取り入れた探究学習を実施する。また、職場体験も実施する。 【生徒の自己評価によるスキル向上平均値】 <table border="1"> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>2.0以上</td> <td>1.5以上</td> <td>1.0以上</td> <td>1.0未満</td> </tr> </table>	A	B	C	D	2.0以上	1.5以上	1.0以上	1.0未満	D	C	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「働くことは人を幸せにすること」をテーマに「しあわせプラン」を提供するという目標に向かって、探究活動を実施することができた。また、株式会社カルビー様、福知山市役所様に御協力いただき、ワークショップを通して学びを深めることができた。</li> </ul>
A	B	C	D										
2.0以上	1.5以上	1.0以上	1.0未満										
第3学年	中高一貫教育校であることを実感し、充実した学級生活を送れるような学級経営を行う。	高校生との交流や協働活動を充実させるとともに、生徒指導、教育相談等を適切に行い、生徒を生かす学級経営に努める。 【学校評価アンケート(学力向上、悩み不安の解消、福高コラボ)に対するプラス評価平均値の割合】 <table border="1"> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>80%</td> <td>70%</td> <td>60%</td> <td>50%</td> </tr> </table>	A	B	C	D	80%	70%	60%	50%	B		<ul style="list-style-type: none"> <li>・学力向上の取組、悩み・不安の解消では、高いプラス評価が得られた。この結果から「個」を大切に学級経営、丁寧な生徒指導や教育相談等が行われたと言える。</li> <li>・一方、福高コラボでは38%という低い結果になり、学校祭だけでなく、他の活動場面で高校生との協働活動ができるよう検討していかなければならない。</li> </ul>
A	B	C	D										
80%	70%	60%	50%										
	総合的な学習の時間「みらい楽」を通して、様々な考え方に触れながら、地域社会の現状や課題を分析し、解決策を考え実行	総合的な学習の時間「みらい楽」の時間を活用し、課題解決型学習の手法を取り入れた探究学習を実施する。		C	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「地域の課題解決」をテーマに</li> </ul>								

	する資質・能力を育む。	<p>【生徒の自己評価によるスキル向上平均値】</p> <table border="1"> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>2.0以上</td> <td>1.5以上</td> <td>1.0以上</td> <td>1.0未満</td> </tr> </table>	A	B	C	D	2.0以上	1.5以上	1.0以上	1.0未満	D	設定し、創意工夫を凝らした魅力ある企画を立案、運営をすることができた。
A	B	C	D									
2.0以上	1.5以上	1.0以上	1.0未満									
事務部	安心・安全な学校を維持し、管理を徹底する。	<p>危機管理意識を持ち、危険箇所の早期発見・早期改修に努める。</p> <p>[危険箇所に対する改修率]</p> <table border="1"> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>90%以上</td> <td>89～70%</td> <td>69～50%</td> <td>50%未満</td> </tr> </table>	A	B	C	D	90%以上	89～70%	69～50%	50%未満	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・危険箇所の早期発見に努め、校舎西側及び南側の老朽化が激しい駐輪場の撤去及び北側駐輪場のトタン張り替え等を実施した。</li> <li>・感染症対策として、老朽換気扇の更新及びHR教室に網戸の設置を設置を実施した。</li> <li>・運営費の執行に当たっては、光熱水費が高騰する中、費用対効果を見極めた執行に努めた。</li> <li>・丁寧な窓口・電話対応で、円滑な学校運営に努めた。</li> <li>・限られた予算で、まだ必要な修繕箇所等があり、今後も一層予算確保に努め安心安全な学校づくりに努めたい。</li> </ul>
	A	B	C	D								
	90%以上	89～70%	69～50%	50%未満								
学校経営方針を推進するため、各分掌・教科と連携し、効果的な予算執行を行う。	<p>各分掌・教科と連携を密にし、教育的効果のある予算執行を行う。学校経営を推進し、本校教育に即した予算計画を立案し、確実に執行する。</p> <p>[教科・分掌の予算執行満足度]</p> <table border="1"> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>90%以上</td> <td>89～70%</td> <td>69～50%</td> <td>50%未満</td> </tr> </table>	A	B	C	D	90%以上	89～70%	69～50%	50%未満	B		
A	B	C	D									
90%以上	89～70%	69～50%	50%未満									
丁寧、的確及び迅速な窓口業務・電話対応を行う。	<p>府民との窓口になる対応を丁寧かつ的確、迅速に行い、円滑な学校運営に努める。</p>	B										
国語科	主体的・対話的で深い学びからの授業改善や、ICTの活用などにより、生徒が意欲的に思考し、表現しようと思える指導の工夫改善に努める。	<p>既習の事項や考え方を生かした表現活動を充実させ、思考への意欲を高めるような言語活動を設定する。</p> <p>[「授業に意欲的に取り組んでいる」の割合]</p> <table border="1"> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>3.6以上</td> <td>3.3以上</td> <td>3.0以上</td> <td>2.9以下</td> </tr> </table>	A	B	C	D	3.6以上	3.3以上	3.0以上	2.9以下	C	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ICTも活用して、丁寧な作文指導などを行い、論理的な思考力や表現力を高めることができた。また、漢字などの小テストに加えて、授業の振り返りも取り入れ、単元ごとに目標を意識して学習に取り組ませることができた。</li> <li>・「授業に意欲的に取り組んでいる」は3.2、「授業中に「分かった」「できた」と思うことがよくある」は3.4であった。</li> </ul>
	A	B	C	D								
3.6以上	3.3以上	3.0以上	2.9以下									
生徒の言語文化に対する関心を深め、基本的な語彙力等の定着を図る。	<p>単元の中で重点的に扱う指導事項を検討し、知識・技能の定着を図る。小テストなどを活用して、家庭学習の方法を改善させる。[「授業中に「分かった」「できた」と思うことがよくある」の割合]</p> <table border="1"> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>3.6以上</td> <td>3.3以上</td> <td>3.0以上</td> <td>2.9以下</td> </tr> </table>	A	B	C	D	3.6以上	3.3以上	3.0以上	2.9以下	B		
A	B	C	D									
3.6以上	3.3以上	3.0以上	2.9以下									
社会科	身近な問題から国際的な分野に関することまで、社会的事象に関して関心・意欲を高めたうえで、生徒が「見方・考え方」を働かせる機会を適切に設定し、思考力・判断力・表現力を高める。また高校との連携をはかり、次のステップにつながるように知識・技能を習得させる。	<p>授業の中でICTを効果的に活用し、指導方法の改善を図りながら、学力向上につなげていく。習得した知識・技能が生きて働く力となるように、活用の場面を適切に設定していく。</p> <p>[授業アンケートの中の「先生の教え方に工夫が感じられ、自分自身の理解を深められている」に対する生徒の自己評価の平均]</p>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・タブレットを活用して、写真や資料を提示し、気づきや疑問を出し合うことで課題を共有し、知識や技能を習得させるだけではない深い学びとなる授業を意識した。</li> <li>・新聞スクラップや新聞作成の取</li> </ul>								

		<table border="1"> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>3.6以上</td> <td>3.0～3.5</td> <td>2.5～2.9</td> <td>2.4以下</td> </tr> </table>	A	B	C	D	3.6以上	3.0～3.5	2.5～2.9	2.4以下			
A	B	C	D										
3.6以上	3.0～3.5	2.5～2.9	2.4以下										
		<p>様々な課題（グローバルな課題から地域課題まで）を主体的・協働的に発見・探究するための学習機会を設ける。</p> <p>[各学年の課題解決型授業の実施回数]</p> <table border="1"> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>12回以上</td> <td>11～9回</td> <td>8～6回</td> <td>5回以下</td> </tr> </table>	A	B	C	D	12回以上	11～9回	8～6回	5回以下	B	B	<p>組を通して、社会的事象への関心を高め、学んだ内容を表現する機会を設けた。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全ての単元・授業で学習課題を設定して授業を展開し、社会的事象の意味や相互の関係を考察したり、話し合ったりし、解決に向けて選択・判断する機会を設けた。</li> <li>・各学年長期休みにフィールドワークを実施するなど、社会的事象に関心を高める取組を実施できた。</li> </ul>
A	B	C	D										
12回以上	11～9回	8～6回	5回以下										
数学科	<p>主体的な態度で学習に励む生徒を育成し、社会の変化に対応できる学力を養成する。</p>	<p>学ぶことやわかることが楽しいと感じられるように、主体的に考えられる機会を大切に授業を展開する。</p> <p>[学ぶことやわかることが楽しいと感じる生徒の割合]</p> <table border="1"> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>75%以上</td> <td>50%～75%</td> <td>30%～50%</td> <td>30%以下</td> </tr> </table>	A	B	C	D	75%以上	50%～75%	30%～50%	30%以下	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・3学年のアンケート結果の平均は88.8%であった。授業の難易度は高いと感じたり、数学は苦手だと感じる人は少ないが、授業を楽しく受けられ、数学を純粋に楽しく学んでいる割合は高いと判断できる。今後は、基礎基本の定着と発展的な学習のバランスをとりながら附属中ならではの手法で授業を展開していきたい。</li> </ul>
	A	B	C	D									
75%以上	50%～75%	30%～50%	30%以下										
<p>学習意欲を高める指導の工夫と改善を推進する。</p>	<p>デジタル教科書を使った授業を始めとし、ICTの活用についての交流を図り、効果的な使い方を実践しながら交流を図る。</p> <table border="1"> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>図れた。</td> <td>まあまあ図れた。</td> <td>あまり図れなかった。</td> <td>図れなかった。</td> </tr> </table>	A	B	C	D	図れた。	まあまあ図れた。	あまり図れなかった。	図れなかった。	A			
A	B	C	D										
図れた。	まあまあ図れた。	あまり図れなかった。	図れなかった。										
理科	<p>質の高い学力の定着を図るための集団づくり・環境づくりに努める。</p>	<p>学習の達成度を的確に把握して評価を行う。また、生徒相互の討議や教え合い学習など生徒自らが学ぶ授業づくりに努める。</p> <p>観察や実験などを小グループで行い、すべての生徒が学習活動に参加しやすい条件づくりに努める。</p> <p>[グループ学習等を取り入れた授業の実施回数]</p> <table border="1"> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>週3以上</td> <td>週2以上</td> <td>月4以上</td> <td>月2以下</td> </tr> </table>	A	B	C	D	週3以上	週2以上	月4以上	月2以下	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ほぼ毎回の授業で全学年ともグループ討議がなされており、受動的ではなく能動的な授業実践ができた。それにより、思考力を育んだり、また疑問を出し合うことで主体的に学習する生徒の育成につながった。高校内容やICTを利用して教科書外の内容を理解し、アウトプットする展開が多いため、思考力が高まる一方、思考問題に頭を悩ます生徒も一定数おり、手立てが不十分なこともあった。</li> </ul>
	A	B	C	D									
週3以上	週2以上	月4以上	月2以下										
<p>中高6年間を見通しながら、生徒の興味、関心、意欲を高め、主体的に学ぶ態度を育成する。</p>	<p>高校で使用する教材・教具の活用に加え、ICT等も活用しながら、自然事物についての興味・関心を高める。</p> <p>[理科の学習が「好き」または「まあ好き」の割合]</p> <table border="1"> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>95%以上</td> <td>94～90%</td> <td>89～80%</td> <td>80%未満</td> </tr> </table>	A	B	C	D	95%以上	94～90%	89～80%	80%未満	A			
A	B	C	D										
95%以上	94～90%	89～80%	80%未満										



	<p>&lt;ICTの有効的な活用&gt; 一人一台タブレットを効果的に活用し、主体的に学習に取り組む態度（粘り強く取り組む力・学習を調整する力）の育成につなげる。</p>	<p>体育の授業で個人の動きを動画で撮影して視覚的フィードバックを与えたり、体育や保健の授業で映像資料を活用するなど、ICTを積極的に活用して、生徒の学習内容の理解度を高め、技能の向上を図る。 [生徒にアンケートを実施し、「授業でICTが効果的に活用されていた」の項目で、肯定的に回答した人数の割合]</p> <table border="1" data-bbox="846 304 1473 371"> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>90%以上</td> <td>80~89%</td> <td>70~79%</td> <td>0~69%</td> </tr> </table>	A	B	C	D	90%以上	80~89%	70~79%	0~69%	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>主にスキルテストの動画撮影やレポート作成において活用した。動画を添付し、自己の動きを客観的にとらえ、合理的な体の動かし方について分析することで主体的に学習に取り組む態度の育成に寄与できたと考えている。</li> </ul>								
A	B	C	D																	
90%以上	80~89%	70~79%	0~69%																	
技術・家庭科	<p>生活や技術に関する実践的・体験的な活動を通して、より良い生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、生活を工夫し創造する能力資質を育む。（生活と技術についての基礎的な理解とそれらに係る技能を身に付けさせる。）</p>	<p>生徒に身に付けさせたい課題に関する観点と尺度を明確にした学習到達度や評価基準（実物例やルーブリック等）を示し、技能の習得に生かす。 [課題に対する実物例やルーブリック等の作成割合]</p> <table border="1" data-bbox="860 568 1487 635"> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>80%以上</td> <td>79~60%</td> <td>59~40%</td> <td>39%以下</td> </tr> </table>	A	B	C	D	80%以上	79~60%	59~40%	39%以下	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>それぞれの課題についてルーブリックを提示しながら行った。</li> <li>木材加工後半では、『自らの作品を販売するためのCMづくり』を課題として設定した。</li> <li>年間を通して、生活を工夫し創造する能力資質を育むことができた。一方で、技術科としての能力の向上については、課題が残るため、引き続き改善していきたい。</li> </ul>								
A	B	C	D																	
80%以上	79~60%	59~40%	39%以下																	
英語科	<p>中高6年間を見通して、英語4技能5領域を総合的に育成する学習指導を行い、情報や考えなどを理解したり表現したり伝え合ったりするなど、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成する。</p> <p>外国語の知識および技能を活用して自分の気持ちや考えを表現したり伝え合ったりすることができる力を養う。</p>	<p>単元ごとに目標を明示し、単元の終わりに生徒が自らの学習を振り返る機会を設ける。 [2学期授業評価アンケート「自分の学習活動を振り返り、工夫や改善をしながら、粘り強く取り組んでいる。」の割合]</p> <table border="1" data-bbox="819 1026 1406 1093"> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>3.6以上</td> <td>3.5~3.2</td> <td>3.1~2.8</td> <td>2.8未満</td> </tr> </table> <p>自分の考えや気持ちを伝え合うコミュニケーション活動の場を多く展開する。 [パフォーマンステストの振り返りアンケート「コミュニケーションを行う場面や目的、状況などに応じて、自分の気持ちや考えを簡単な言葉で表現したり伝え合ったりすることができた」の割合]</p> <table border="1" data-bbox="840 1321 1431 1388"> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>90%以上</td> <td>80%以上</td> <td>70%以上</td> <td>70%未満</td> </tr> </table>	A	B	C	D	3.6以上	3.5~3.2	3.1~2.8	2.8未満	A	B	C	D	90%以上	80%以上	70%以上	70%未満	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>2学期の授業評価アンケート「自分の学習活動を振り返り、工夫や改善をしながら、粘り強く取り組んでいる。」の各学年の評価での平均が4点満点中3.5点であった。今後も、生徒が自ら目標を設定したり、スモールステップで成果を感じたりすることができるよう、単元テストやパフォーマンステストを計画的に実施する。また、英語を苦手とする生徒への個別支援も行っていく。</li> <li>アンケートで85%の生徒が「単元で習った表現を活用して気持ちや考えを伝えることができた」と答えた。今後も、知識の定着と、それらを活用する力の育成の両立を図れるよう、授業改善を行う。</li> </ul>
A	B	C	D																	
3.6以上	3.5~3.2	3.1~2.8	2.8未満																	
A	B	C	D																	
90%以上	80%以上	70%以上	70%未満																	

<p>道徳</p>	<p>道徳の授業を中心に、自分自身を見つめ、人間としての生き方や周りの仲間や社会との関わりについて考え、表現する経験を積ませる。</p>	<p>自分自身や自らの属する集団について考え、表現する経験を重ねることで、より良い環境を自ら作っていきけるようにする。 [学校評価アンケートにおける、自らの属する集団や自分自身についての、肯定的な評価の割合]</p> <table border="1" data-bbox="826 276 1384 341"> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>95%以上</td> <td>90%以上</td> <td>85%以上</td> <td>85%未満</td> </tr> </table>	A	B	C	D	95%以上	90%以上	85%以上	85%未満	<p>C</p>	<p>・道徳の授業などで、学級内で自己を表現したり、互いに思いを受け入れ合ったりすることができた。そうした経験が、自分の所属する集団や自分自身に関する肯定的な感情や、学級での活動や行事を円滑に運営することにつながっている。 ・今年度は、中丹で開催された京都府の研究大会に、担任1名を含む2名で参加し、道徳の授業の進め方や発問の仕方などについて学ぶことができた。</p>
A	B	C	D									
95%以上	90%以上	85%以上	85%未満									
	<p>それぞれの内容項目について、生徒が考える道徳の授業を行い、道徳的価値に対する理解を深める。</p>	<p>担任教師と道徳担当が連携し、指導と評価が円滑に行われるようにする。 [授業内容や評価についての情報交流]</p> <table border="1" data-bbox="882 470 1440 536"> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>25回以上</td> <td>20回以上</td> <td>15回以上</td> <td>15回未満</td> </tr> </table>	A	B	C	D	25回以上	20回以上	15回以上	15回未満	<p>B</p>	
A	B	C	D									
25回以上	20回以上	15回以上	15回未満									

<p>学校関係者評価委員会による評価</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校経営計画から本校における教育活動の安定感を感じる。ただ、評価が厳しすぎると感じるので教職員のモチベーションの面からも評価方法を再考してみるのも一つの方法である。</li> <li>・生徒や保護者の意見を真摯に受け止めている様子が窺える。できていない点ばかりに着目するのではなく、生徒がどれだけ伸びたかといった視点から成果があれば教職員全体で共有する事が次への活力に繋がっていく。</li> <li>・中高の繋がりでは、中学生側からすると先輩に教えてもらおうと刺激になり、高校生側からすると教えることで理解が深まる側面がある。そういった意味では土曜講座等を活用して定期的に学び合いの場面を設定するとwin-winの関係ができるはずである。</li> <li>・探究的な学びを高校へとといった縦の繋がりを発表会だけといったイベント的でなく、定期的に行っていくとさらに学びが深まっていくはずである。</li> <li>・探究活動を通じて地元のことを深く知ることによって地元への愛着を強く感じ、この恩を将来自分が地元に戻していきたい。といった感想を生徒がもつのは深い学びを得たという成果である。</li> <li>・ホームページが充実していて、生徒たちがいきいき学校生活を送っている様子が伝わってくる。また、校外での各種取組を通じて生徒の自己肯定感が高まっている様にも感じる。さらにその様子を生徒に伝え、生徒の自信につなげていくことが重要である。</li> <li>・評価の際には、「評価を集めて終わり」にならぬよう全体にフィードバックしその評価を次に生かしていくことが重要である。</li> <li>・情報発信として、学校便りをHPの見やすい位置への設置、本校HPから附属中や分校への接続するバナーの設置など工夫して情報提供する必要がある。</li> </ul>
------------------------	--

<p>次年度に向けた改善の方向性</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中高一貫教育の推進のため、6年間を見据えて中高間及び分掌間の連携を図るとともに、中高一体となった校内組織を確立していく。</li> <li>・教職員の資質・能力の向上と学校全体の教育力向上のため、学校組織の業務改善と効率化を図っていく。</li> <li>・生徒の資質・能力を育成するため、生徒の発達段階に応じたきめ細かで、組織的な生徒指導体制を確立していく。</li> <li>・一人一人の学力の向上に向け、少人数授業等のきめ細かな指導を通して、基礎的・基本的な学力の定着を徹底するとともに、わかる喜びを実感させる。また、ICTを効果的に活用しながら「主体的・対話的で深い学び」の視点に立った指導を行い、思考力、判断力、表現力を育成していく。</li> <li>・総合的な学習の時間「みらい楽」や各種体験活動を通して探究の楽しさを実感するとともに、自ら課題を設定し社会や地域の課題解決に主体的に取り組む姿勢を養っていく。</li> <li>・各種行事や部活動、生徒会活動等での協働活動を通して、異年齢との関わりから学び、刺激を受け、成長できるような、中高一貫教育校ならではの「福高コラボ」を一層推進していく。</li> <li>・学級活動や学校行事、部活動、伝統文化体験授業等を通して、健やかな身体と豊かな人間性を育成していくとともに、人権意識や規範意識、思いやりの心を育てていく。</li> <li>・全教職員が危機管理意識を高めるとともに、防災意識を生徒・保護者・教職員が共通認識をもち、学校全体として安心・安全な学校を作っていく。</li> <li>・家庭との連携を密にして信頼関係を築くとともに、地域学習や地域連携活動等を通して、家庭・地域・関係機関との連携の強化を図っていく。</li> </ul>
----------------------	---